

SDP-RIP、Windows プリンタ作成手順書

ダイヤミック テクニカルサービスセンター

概要

SDP-RIP は PostScript プリンタとして機能させることができます*1。

ダイヤミック社は、基本的にファイルをホットフォルダに送る Spool 入力を推奨しておりますが*2、必要性があればプリンタ入力を設定いたします。このマニュアルでは、プリンタ入力チャンネルと Windows プリンタの作成手順をご説明します。(Windows7 環境が前提になります)

1. 入力チャンネルの作成	p2
2. Windows プリンタの作成	p3
3. Mac OSX 用の設定	p4
4. Mac OSX プリンタの作成	p4
5. 参考:手作業でのプリンタ作成	p6
6. 参考:NT-Input からの切り替え	p8
7. 参考:PC の IP アドレスを変更した場合	p10

*1:SDP-RIP のプリンタ入力

SDP-RIP は、AppleTalk、NT-Input、Socket Input の3種類のプリンタ入力機能があります。
AppleTalk は、Windows XP 以降および OSX 10.6 以降で対応できなくなっています。
NT-Input は、Windows 7 で動作が不安定になる事例が報告されています。
このマニュアルでは、安定動作が確認できている SocketInput を使った方法を説明しています

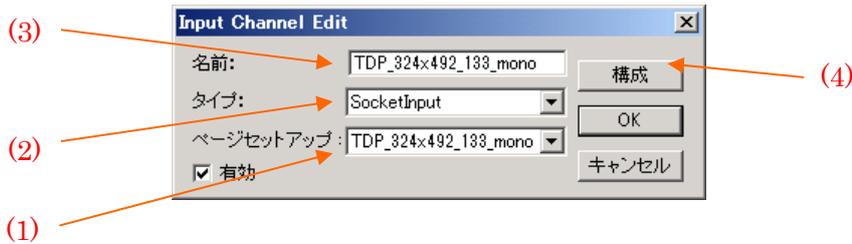
*2:Spool 入力を推奨する理由

プリンタ入力では PDF1.4 以降に対応できないため、透明効果の再現が崩れる可能性があります。
SDP-RIP の簡易面付け機能の両面/綴じ配置は、Spool 入力された PDF のみに対応しています。
Spool 入力の方がトラブルの起きる可能性が低く、対処もやりやすい傾向があります。

1. 入力チャンネルの作成

SDP-RIP用PCは、必ず固定IPを割り振り、プリンタの共有を有効にしてください。SDP-RIPでは必要な予めページ設定を、出力機/解像度/線数/レイアウト等の設定条件に応じて作成しておきます。

メニューバーから SDP-RIP > 入力コントローラーを選択して、入力コントローラーダイアログを開き、[新規作成]をクリックしてください。



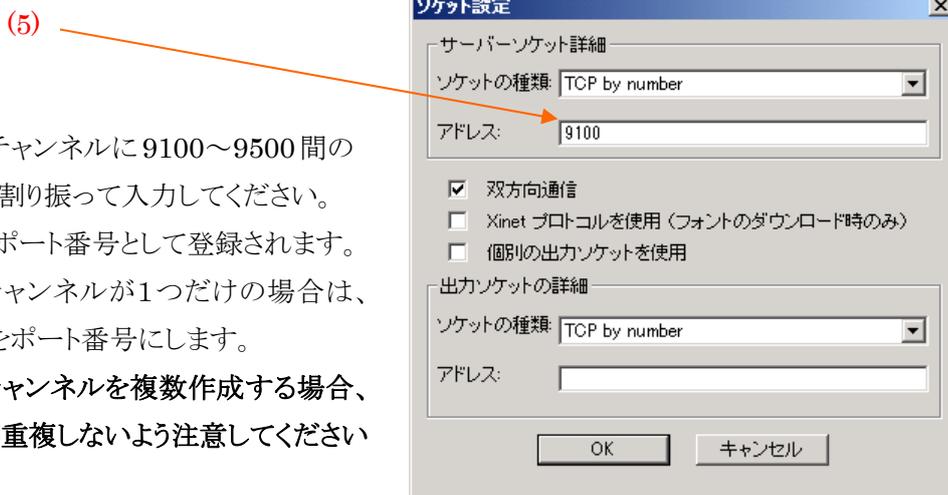
(1) 一番下のページセットアップの欄で、予め作成しておいたページ設定を選びます。

(2) タイプの欄で、[SocketInput]を選択します。

(3) 入力チャンネル名。通常は選択したページ設定名を入力します。

この名前ですプリンタが作成されるので、Windows 禁止文字(*!/?!#) は使わないでください。

(4) 構成ボタンをクリックしてください。ソケット設定ダイアログが開きます。

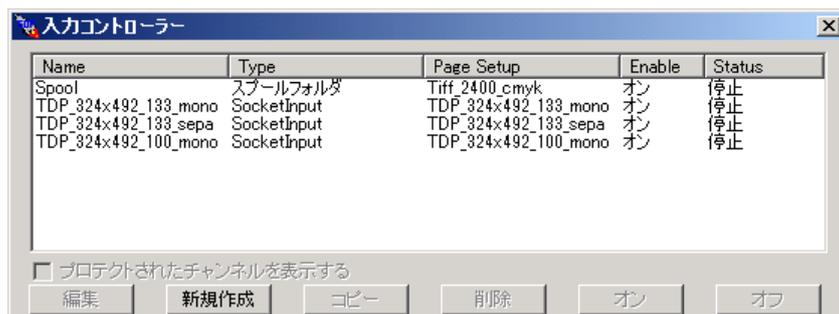


(5) 入力チャンネルに9100～9500間の数値を割り振って入力してください。これがポート番号として登録されます。入力チャンネルが1つだけの場合は、9100をポート番号にします。入力チャンネルを複数作成する場合、番号が重複しないよう注意してください

OKをクリックして設定終了です。他の項目を設定する必要はありません。

必要なページ設定の数だけ同様の操作を繰り返します。

(Socket 入力チャンネルを3つ作成した例)



2. Windows プリンタの作成

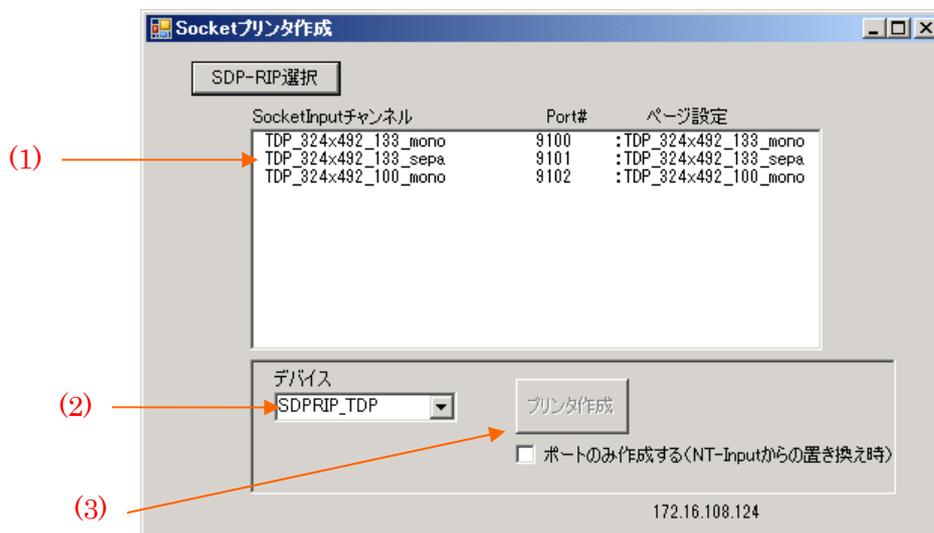
ダイヤミック社から供給された[プリンタ作成ツール]フォルダを、SDP-RIP がインストールされたフォルダ(またはその中の Utilities フォルダ)にコピーし、中の Socket プリンタ作成ツール.exe を起動させてください。

(ツールが手元にない場合は 5 章参照)



作成しておいた Socket 入力チャンネルがポート番号とともに一覧表示されます。

(重複した Port#がある場合は、前章に戻って RIP 上の設定をやり直してください)



(1) プリンタを作成した入力チャンネル名をクリックして表示を反転させます。

(複数選択する際、Shift キーや Ctrl キー等を押す必要はありません)

(2) 出力デバイス名を選択します。



(3) [プリンタ作成]ボタンをクリックすると、Windows プリンタが自動的に作成されていきます。

ドライバ関連のダイアログが表示された場合は、”インストールする”を選択してください。

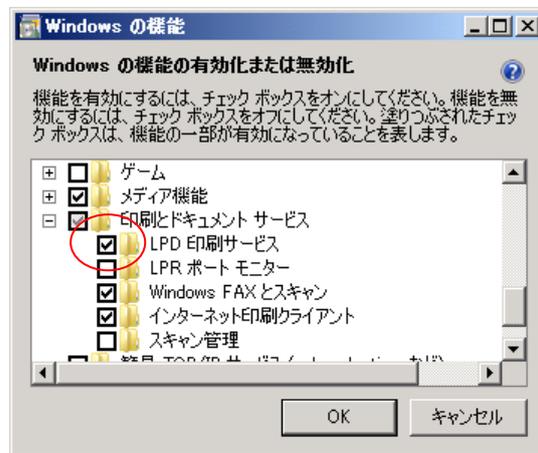
SDP-RIP を起動し、メニューバーから[SDP-RIP]>[入力の受付開始]を選択してください。これでプリンタ入力が可能になります。スタートメニューから[デバイスプリンタ]を開き、作成された Windows プリンタを右クリックして[プリンタのプロパティ]を選択し、[テストページの印刷]をクリックして正常に RIP 処理されるかどうか確認してください。

3. Mac OSX 用の設定

(DMC 仕様の AT980E、AT990E では設定済みです)

Windows のコントロールパネルから、[プログラムと機能]を選択します。

ダイアログ右上の[Windows の機能の有効化または無効化]をクリックしてください。



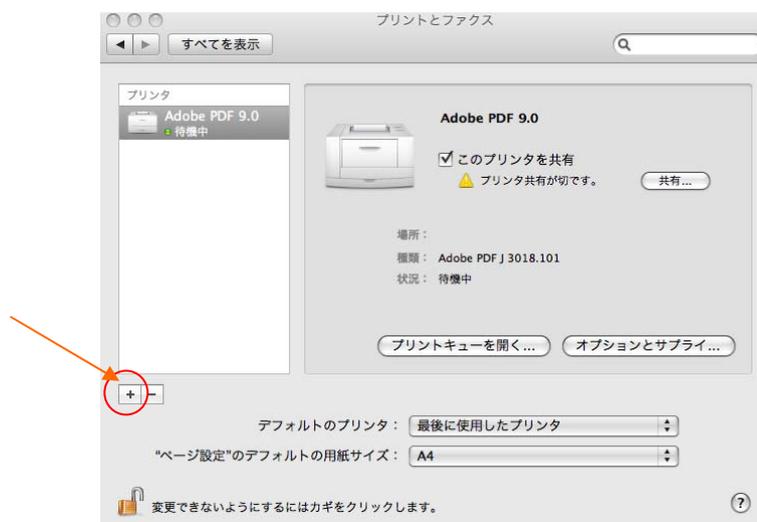
[印刷とドキュメントサービス]の欄までスクロールダウンし、中の[LPD 印刷サービス] にチェックを入れてください。

この設定で、Mac から Windows PC のポートにアクセスできるようになります。

3. Mac OSX プリンタの作成

SDP-RIP を起動し、メニューバーから[SDP-RIP]>[入力の受付開始]を選択してください。

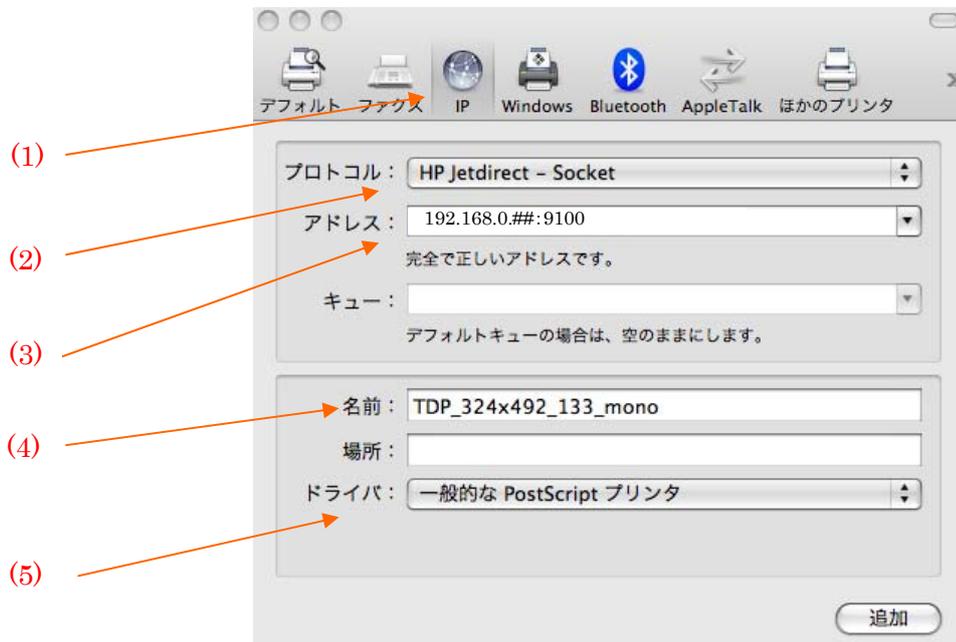
Mac OSX にて、[システム環境設定]から[プリンタとファックス]を選択します。



ダイアログ左側の+記号をクリックしてください。

プリンタ追加ダイアログが開きます。

(具体的な表示内容は OS のバージョンによって異なりますが、設定項目は同じです)



(1) IP プリンタを選択します

(Windows を選択して、RIP PC 上にあるプリンタが直接選択できるようならば、そちらを使用してもかまいません。ただしネットワーク環境等の様々な要因によって選択できない場合があるため、確実な IP プリンタの設定方法をご説明します)

(2) [HP Jetdirect – Soker]または[LPD]を選択します。

(3) [RIP 用 PC の IP アドレス] : [入力チャンネルのポート番号]を入力してください。

例) 192.168.0.100:9101

(IP アドレスだけを入力した場合、ポート番号は 9100 と見なされます。)

(4) 作成するプリンタ名。

通常は、ポート番号で指定された入力チャンネルの名前をそのまま入力します。

(5) デフォルトの[一般的な PostScript プリンタ]のままでもかまいません。

[その他]を指定して SDP-RIP インストーラーCD の PPDs_Win フォルダ内にある各デバイスの PPD ファイルを選択することもできます。PPD を選択すると、AdobeCS 等のアプリケーションのプリントダイアログ上にデバイスの最大サイズ(TDP の場合はさらに有効印字可能領域)が反映できるというメリットがあります。

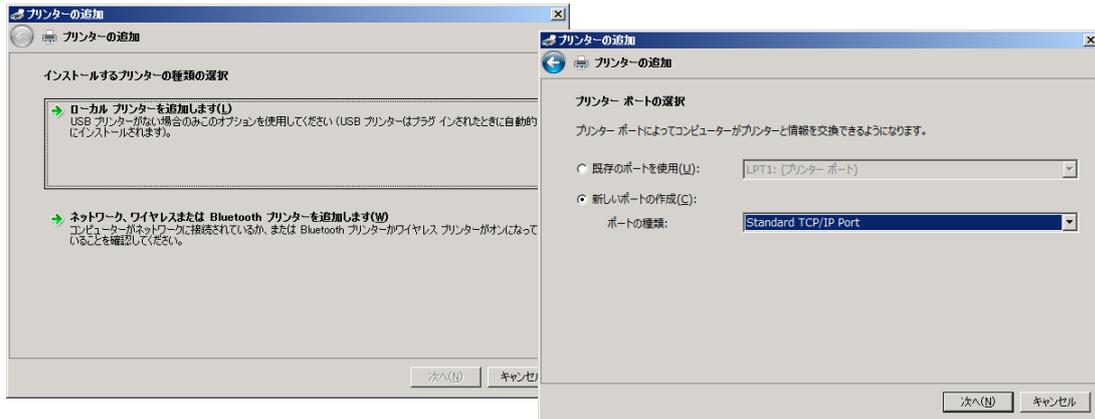
[追加]ボタンをクリックすると、プリンタが作成されます。

5. 参考：手作業でのプリンタ作成

ダイヤミック製のプリンタ作成ツールが手元にか何らかの理由で動作しない場合、少し手間はかかりますが以下の手順で Windows プリンタを作成してください。

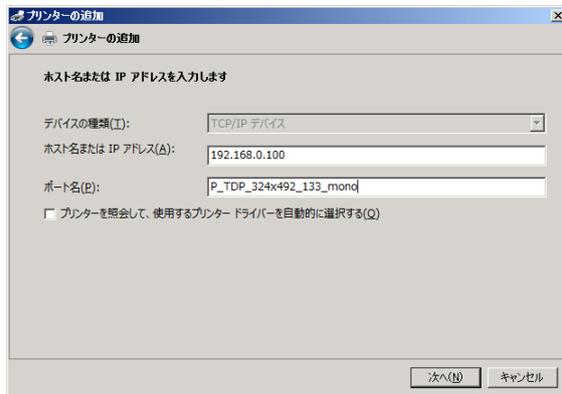
スタートメニューから[デバイスプリンタ]を開き、[プリンターの作成]をクリックします。

ローカルプリンターを追加し、新しいポート作成として[Standard TCP/IP Port]を選択します。

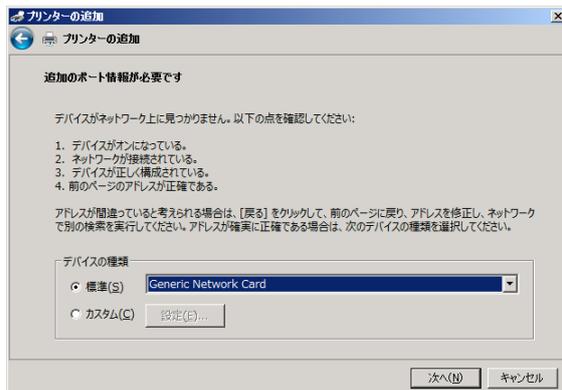


IP アドレスの欄に RIP PC の IP アドレスを、

ポート名の欄に入力チャンネル名を反映した名前(例:P_入力チャンネル名)を入力してください。



しばらくすると[追加のポート情報が必要です]と表示されます。そのまま[次へ]をクリックしてください。



次にプリンタソフトウェアのインストールダイアログになります。SDP-RIP CD をセットした上で「ディスク使用」をクリックし、CD 中の「PPDs_Win¥Oemsetup.inf」を選択して、出力セッターの PPD を選びます。もし現在のドライバを使うかどうか聞いてきたら、推奨の設定を選択してください。

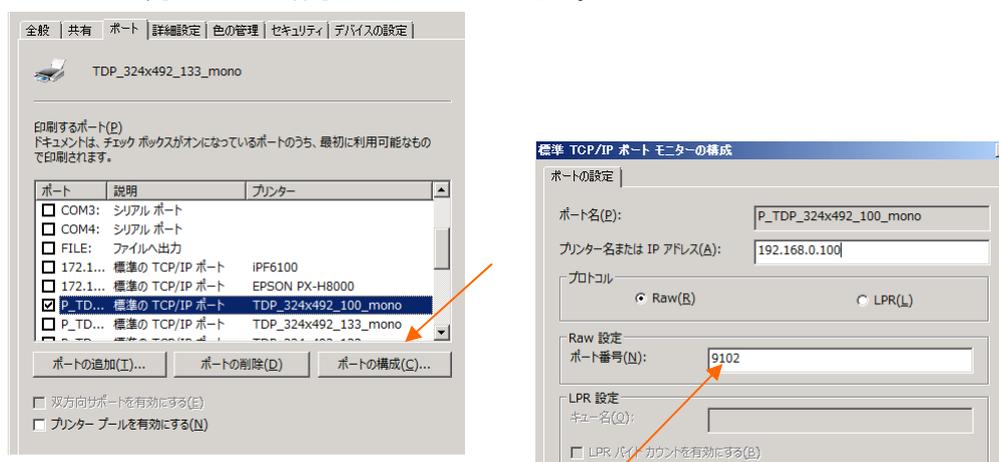
プリンタ名の入力ダイアログが表示されるので、出力するページ設定にちなんだプリンタ名を入力します。次の共有名の入力では、プリンタ名をそのまま使います。

この後、必要に応じて場所とコメントを入力します。

最後の「テストページの印刷」では、「いいえ」を選択してください(まだプリントできません)。

出来上がったプリンタを右クリックして[プリンタのプロパティ]を選択します。

ポートタブをクリックし、[ポートの構成]をクリックしてください。



ポート番号の欄に、入力チャンネルで指定した数値を入力してください。

なおポート番号が空欄の場合、数値は 9100 とみなされます。9100 の番号をわりふった入力チャンネルは、[ポートの構成]の操作は不要です。

以上で有効な Windows プリンタが作成されます。この操作を必要な入力チャンネルの数だけ繰り返してください。

6. 参考：NT-Input からの切り替え

これまでは SDP-RIP のプリンタ入力チャンネルとして NT-Input を採用してきましたが、Windows7 環境下では動作が不安定になる可能性があることがわかりました。また、それ以前の OS でも NT-Input で原因不明の異常が報告された事例があります。

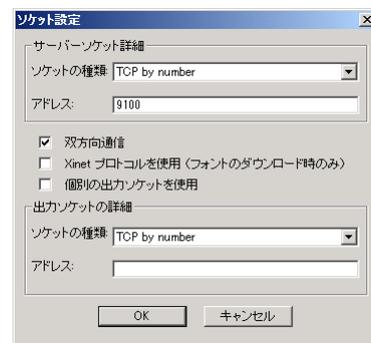
NT-Input を導入している先で動作不安定性が生じた場合は、SocketInput に切り替えてください (Socket プリンタ作成ツールは、Server2003 や Windows XP 環境でも使用できます)。

その場合、1～2 章の内容に従って新規に Socket 入力チャンネル用の Windows プリンタを作成することもできますが、既存の Windows プリンタをそのまま使いプリンタポートだけ切り替えるのが効率的です。以下に手順を説明します。

1. SDP-RIP を起動し、入力コントローラー上に表示されている NT-Input チャンネルを編集してタイプを SocketInput に切り替え、[構成] をクリックします。



2. p2 記載の手順と同じ要領で、9100 以上のポート番号を重複しないように割り振って、アドレスの欄に入力します。

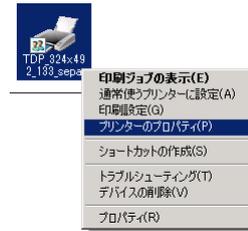


3. 入力チャンネルを全て切り替えたら SDP-RIP を終了し、Socket プリンタ作成ツール.exe を起動させてください。

[ポートのみ作成する]にチェックを入れた上で、必要な入力チャンネルを選択し、[ポート作成]をクリックします。



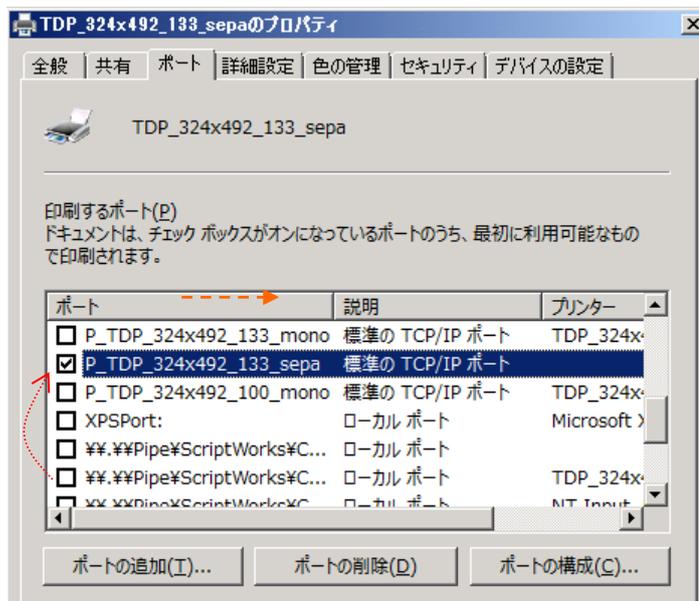
4. スタートメニューから[デバイスとプリンタ]を開き、作成された Windows プリンタを右クリックして[プリンタのプロパティ]を選択します。



5. [ポート]タブを選択してください。

”ローカルポート”または”ScriptWorks”が選択されているはずですが。

ポート名の表示欄の幅を広げて表示させ、“P_(入力チャンネル名)”という名前の TCP/IP ポートを選択して OK をクリックしてください。これで、Windows プリンタはそのままで、ポートだけ SocketInput に切り替わります。



7. 参考 : PC の IP アドレスを変更した場合

LAN 環境の再構築等のために PC の固定 IP アドレスを変更した場合は、プリンタポートの設定を再定義してください。なお Mac OSX の IP プリンタは、全て新規作成で作り直しになります。

Socket プリンタ作成ツールがある場合

ツールを起動してください。

指定した番号のプリンタポートが既に作成されている入力チャンネルは、*印が表示されています。



[ポートのみ作成する]にチェックを入れた上で、必要な入力チャンネルを全て選択し、[ポート作成]をクリックしてください。

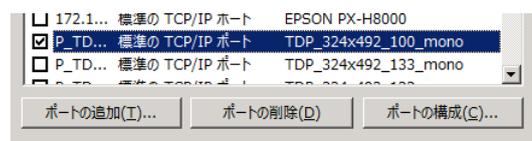


これでプリンタポートの IP アドレスが再定義されます。

Socket プリンタ作成ツールがない場合

スタートメニューから[デバイスとプリンタ]を開き、目的の Windows プリンタを右クリックして[プリンタのプロパティ]を選択してください。

[ポート]タブを選択し、[ポートの構成]をクリックします。



[プリンター名または IP アドレス]の欄に、新しい IP アドレスを入力してください。



以上の作業を必要な Windows プリンタの数だけ繰り返します。

以上